

研究だより

2019年

10月21日 NO.19

6年担任

社会：難解用語こそ学び合いで…

6年生の社会。歴史はとてもおもしろい。しかし、明治時代に入ってくると、四文字熟語が多く出てきて、漢字も内容も難しくなる。漢字の苦手な子にとっては地獄のような時代。その時代を「楽しく」とまではいなくても、なんとか主体的に学ぶようにするためにはどうしたらいいか…と考えた。



この2ページに

・廃藩置県・富国強兵・殖産興業・地租改正・徴兵令と、難解な用語が一气に出てくる。

そこで、何も教科書を読まないうちに、この用語5つを提示した。そして、この用語5つについてグループで調べて、明治政府はどんな国づくりを目指したかを考えるように指示した。

4人で分担して、それぞれの用語について調べた。その後、ボードに調べたことを書き出ししていきながら、グループで、それらが互いにどう関わっているかを考え始めた。

そうすることで、それぞれの意味を考え直したり、どうつながっているかを検討し合ったりしていた。例えば、廃藩置県は、「藩をなくてして県をおく」という意味理解ではなく、「なんのためにそうしたのか」「そのことによってどんなメリットやデメリットがあったの」などを考えていた。そうやって考えていくと、今まで藩を治めていた武士たちは、立場がなくなり、不満に思ったんじゃない？などと次の時間につながる発想も生まれてきた。

グループで、それぞれの用語のつながりを考えながら、「だから、こんな国にしたかったのだ」という結論まで導くことができた。この結論はもちろん大切ではあるが、それぞれの用語がどう関わっているかを考えることが一番大切だと思う。ただ、その理解もグループ内だけでは、弱いので、ある程度自分のグループの考えを説明できるようになったら、グループ同士で説明し合わせた。そうすることで、足りない部分を補ったり、さらによく理解したりすることができた。

社会を意味理解の暗記科目にせず、流れをつかませるようにしていくと、主体的に学ぶことができるのかなと思った。難解用語は教師が説明してもよくわからない。だからこそ、学び合いが大切なのかなと思いながらちょっとチャレンジしている。

